

氏名	屋代 恵子	学校名	茨城県 県立太田第一高等学校
担当教科	外国語（英語）	対象学年（人数）	第1学年（32名）
実践年月日（時数）		2019年7月～11月（10時間）	

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：コミュニケーション英語 I / 総合的な学習の時間（「道徳」）		
2. 単元名：私とあなたと世界の人と		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：他人の考えと自分の考えの違いを体験的に捉える 単元目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の考えはそれぞれ違うということを、話し合い活動を通して再認識し、それを肯定的に捉えようとする態度を育成する。</li> <li>・ ネパールという国を通して日本との共通点・相違点について考え、そこから自分の興味がある分野についての知識を深めるとともに職業観を養う。</li> </ul> 関連する学習指導要領上の目標： 「生徒一人一人が道徳的価値や人間としての在り方、生き方に関する自覚を深め、豊かな心を育て、未来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする道徳的实践力を高める。」 （高等学校の道徳教育（茨城県教育委員会）、1 県立高等学校における「道徳」の全校履修、（2）「道徳」の目標・内容等とは、1 目標）		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	国際協力や開発途上国に対する知識を深める。
	②思考力、判断力、表現力等	自分の選択した分野（教育、医療、福祉、農業、インフラ、生活/文化）について自ら課題を設定し、発表活動を通して他人に自分の考えを伝える。
	③学びに向かう力、人間性等	グループで協力して発表活動（プレゼンテーション）を行う。
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	<p><b>【単元設定の理由】</b>          本校は進学重視型単位制高校として生徒一人一人の進路に合わせたきめ細やかな教育を目指しており、「国際理解を深め、グローバルな視点と国際感覚の育成に努める」ことを目標に掲げている。ここで挙げるグローバルな視点と国際感覚とはどのようなものなのか、生徒に質問を投げかけ考えを共有することでこの目標達成に近づけるのではないかと考え、本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b>          本校独自の国際交流事業はあるものの、全校生徒が等しく国際理解教育に触れる機会が十分であるとは言えない。また、「国際」＝「英語」と安直に考える生徒も多く、世界情勢についての知識も浅薄である。あまり馴染みのない国であるネパールを通して、異文化だけでなく自国の良さに改めて気づいたり、外国の様々な文化や課題について考えたりすることでこれからの行動指針を形成することができるのではないかと考える。</p> <p><b>【生徒観】</b>          英語や国際関係に興味がある生徒が多く、普段の授業でも積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られる。クラス全体が協力的で、他の人の話を素直に聞き入れる資質を持っている。</p> <p><b>【指導観】</b>          英語の授業ではあるが、上記の単元目標を達成するために国際理解教育の時間として生徒に説明し、あえて教科書から離れ、生徒の理解度を深めるために日本語を通して学習を進める。</p>	

6. 単元計画 (全 10 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	英語 「JICA について知る」	JICA という独立行政法人を知ることによって「グローバル化」について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA について学ぶ。</li> <li>・ 「グローバル社会」について話し合う。</li> <li>・ 鎖国ゲームを通して「グローバル化」について考える。</li> </ul>  <p>鎖国ゲーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA HP</li> <li>・ 鎖国ゲーム</li> </ul>
2	英語 「ネパールについて知る」	ネパールについてどんなイメージを持っているか共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界地図で場所を確認。</li> <li>・ 「ネパール ウソ?ホント?クイズ」に挑戦する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界地図</li> <li>・ ウソ?ホント?クイズ (愛知県国際交流協会)</li> </ul>
3 ・ 4 ・ 5	英語 「研修結果報告」	日本とネパールの共通点や相違点について考える。 自分の興味がある分野について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 折り鶴を届ける。</li> </ul>  <p>折り鶴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ネパールでの発見クイズ」に挑戦する。</li> </ul>  <p>ネパールでの発見クイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネパールの食べ物を体験する。</li> <li>・ 「海外で働く日本人」インタビュー動画を視聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真</li> <li>・ 動画</li> <li>・ お土産 (クッキーやドライフルーツ)</li> <li>・ ワークシート (ネパールでの発見クイズ) 【資料 1】</li> <li>・ YouTube: CIL accessibility Video</li> </ul>

6 ・ 7 ・ 8	英語 「SDGs について知る」	国連が掲げる世界共通の17のゴールについて知る。	・ 17 のゴールと自分の選択した分野で考え得る課題について話し合う。	・ 「SDGs 世界・日本の現状」 (JICA 筑波国際理解セミナー資料) ・ パワーポイント(屋代先生への宿題) 【資料2】
9 ・ 10 本時	英語、総合 「発表」	自分たちで調べた世界の問題について発表する。	・ パソコンのプレゼンテーションソフトを使って発表する。  プレゼンテーション	

7. 本時の展開 (9・10 時間目) 本時のねらい： 自分の選択した分野(教育、医療、福祉、農業、インフラ、生活/文化)について自ら課題を設定し、発表活動を通して他人に自分の考えを伝える。 グループで協力して発表活動(プレゼンテーション)を行う。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1. 本時の流れを確認する。  【発表における評価の観点】 ① グループで協力してプレゼンテーションができているか。 ② アイコンタクトはとれているか。 ③ 聴衆に聞きやすいように、大きな声で話せているか。 ④ 発表時間(5分～6分)に収まっているか。		・ 発表前準備ワークシート 【資料3】 ・ コメントシート ・ ノート PC ・ プロジェクター
展開 (80分)	2. 発表開始(チーム名/「テーマ」) Education/「Education」 Medical care 1/「Medical care」 Industry/「Fair trade」 Medical care 2/「Differences in Medical Conditions」 ・ コメントシート記入  Welfare/「ネパールの福祉について」 Infrastructure/「インドのインフラ」 Culture-Lifestyle/「21世紀の生活と文化」 ・ コメントシート記入	・ コメントシートの配布 ・ 積極的に質問するよう予め声かけをする。 ・ 発表時間がわかるように計時係をつける。 ・ 各班発表(5～6分間) ・ 質疑応答(1～2分間)	・ ベル ・ ストップウォッチ ・ 計時用紙

<p>まとめ (15分)</p>	<p>3. グループ毎の振り返り、自己評価 4. まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価シートの配布</li> <li>今回の学習で発見したこと、今後深めたいことについて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価シート</li> </ul>
----------------------	--------------------------------------	---	---

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- 一人ひとりが自分の選択した分野について課題を設定し、他人に自分の考えを伝えることができたか。(活動中の態度、自己評価シート)
- グループで協力して発表活動を行うことができたか。(活動中の態度)

9. 学習方法及び外部との連携

授業の始めに手をあわせて「ナマステ」と挨拶し、アイスブレイクから始めるようにした。顔なじみのクラスメイトではあるが、肩の力を抜き、どんな意見でも受け入れてもらえる雰囲気作りを目指した。

プレゼンテーションに向けてのグルーピングでは、予め生徒にどの分野が良いか希望調査を行い、それを元に決定した。(私のミスで「農業」分野を入れ忘れてしまい、「医療」が12人になってしまった。)女子が多く仲の良い生徒同士で固まる傾向があるため、誰とでも協働できるようになることを意図している。グループ作業中はPCやスマートフォンを使い、それぞれが役割分担をして調べ学習を行った。プレゼンソフトの使用に慣れている生徒もいればPCが苦手な生徒もいるので、それぞれが得意なところを活かし作業していた。ときどき脱線してしまうこともあるので、教室内を周りながら適度に声かけをした。



あいさつ (ナマステ)

[プレゼン準備に入る際、生徒に伝えたスライド制作の考え方]

(1) 理想 (2) 現実 (3) 問題点 (4) 解決策 (5) Next Step

グループでテーマを決定し、(分野は決まっているが国やテーマは自分たちで考えさせた) 上記5点を話し合う軸として提案した。



話し合い (プレゼンテーマについて)



授業外の自主的な取り組み(プレゼン準備)

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

本校が毎月発行している「青龍便り(10月号)」(本校及び市内の小中学校を中心に配布)に授業実践についての記事を掲載。

研究授業の前日には高等学校教育研究会英語部主催の研究協議会にて問題提起者として「国際理解授業実践」というテーマで県内英語科教員と分科会を行った。

研究授業当日は本校職員にも周知していたため、英語科のみならず多くの先生方に参観して頂いた。生徒たちはオープンスペースで放課後作業していたため、通りかかった先生に何をしているのか質問されると「国際理解の授業です。見に来て下さい!」と答えていたようだ。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の教材研究が追いつかず、SDGs に関してはただの紹介になってしまった。さらに教材研究を進め、知識としての SDGs ではなく自分たちの身近なものとして捉えられるような活動をしていきたい。</li> <li>・本校のハードウェアの問題で PC 室を確保したり、データをスムーズに移行したりすることが困難であった。生徒が PC を使える時間も限られ、家にデータを持ち帰って作業を進めることができなかつたので、スマートフォンで作った原稿をまた手入力するなど利便性の悪さが否めない。生徒それぞれが使用できるタブレットがあれば、発表活動の準備に割く時間も大幅に削れるだろう。</li> <li>・【指導観】で述べたように、コミュニケーション英語の時間に国際理解教育として行っているため、英語の授業進度が遅れがちであった。計画的に進めたので他クラスとの支障が出る程ではないが、どちらの授業をやるにしてももう少し時間が必要であることを痛感した。道徳の時間もできればもらいたかつた。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「11. 苦勞した点」の1つ目の改善点として、SDGs に関する自己研鑽を進める。また、話し合い活動の設定や発問についても、ファシリテーターとして生徒がより活発に意見を出し合えるよう研修を重ねたい。</li> <li>・他2点については本校の教育課程や施設設備に関わる場所なので、学校として国際理解教育の授業をどのように展開していくのか、本校職員とこの点について共有したい。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私が思っていた以上に生徒達はよく考え、活動に取り組んでくれた。打てば響く生徒達で、時間と機会があれば意欲的に調べ学習をし、プレゼンも細部にこだわって工夫を凝らしてくる。生徒のプレゼンで挙げたトピックを取り上げ、クラス全体で考える時間があれば学びはさらに深まると思った。</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>[1 時限目感想より]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の社会は国境を越えて支え合っているから成り立っているのだと思った。</li> <li>・どの国も他の国の影響を受けて発展していることに改めて気づいた。</li> <li>・いろんなグループのもの(鎖国ゲーム)を見ると、メリットよりもデメリットの方が圧倒的に多かつた。</li> <li>・日本にも世界との関係を強めている機関があることを知った。</li> </ul> <p>1 時限目は「JICA という言葉を聞いたことがありますか?」「あなたが考えるグローバル社会とはどのようなものですか?」という質問に対し、ほとんどの生徒が「知らない。」「改めて言葉にしようとするとう説明できない。」と言っていた。鎖国ゲームを通して、他国とのつながりを実感できたようだ。</p> <p>[屋代先生への宿題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な服や食べ物、生活の様子を調べてきてほしい。</li> <li>・コンビニは多いか少ないか。</li> </ul> <p>これらを基に研修結果報告として私がネパールで見て、聞いて、感じたことをプレゼンした。【資料1】コンビニについてはグループで定義を話し合ってもらい、ネパールで「コンビニ」にあたる店についてクラス全体で考えることができた。</p> <p>[研修結果報告を聞いての感想より]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お菓子はあまりおいしくなかつたけど、ネパールはすごく人が優しく、物がたくさんあることがわかつた。プレスレットとメッセージカードのデザインがすごくかわいい。いつか友達と行ってみたい。</li> <li>・ネパールでは日本より英語教育が進んでいるし、SNS なども使っているこ</li> </ul>

	<p>とを知って、日本と同じように進んでいることがわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールでは障がい者に対するイメージが呪いや悪魔ということを初めて知った。日本でも偏見がないとは言い切れないが、日本の場合には障がい者を支えるしくみがたくさんある。福祉が充実し、もっと人どうしが支え合っていけるようになるといいと思った。</li> <li>・ネパールに日本の技術が取り入れられているのがすごかった（シンズリ道路）。ネパールの人が働いている姿は画像を見ただけだがとてもかっこよかった。</li> </ul> <p>今まではネパールと日本の関係を考えることがなかった生徒たちも、授業をきっかけに色々なことを感じ、「日本は、私は、どうだろうか。」とさまざまなことに考えを巡らせていた。ネパールに対して親近感を覚え、肯定的に捉える発言も多く見られた。</p> <p>[自分たちのプレゼンを通しての感想より]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思ったことを言葉で言い表すことは難しかった。世界にはさまざまな問題があり、それを解決するためには、自分も含め、1人ひとりが積極的に興味を持って問題と向き合って考えていくことが大切。</li> <li>・国際理解教育の授業を受ける前は、ほとんど日本のことしか考えていなかったが、授業を受けているうちに、世界のこともしっかり知ることができた。そして、日本にも苦しいことはたくさんあるけれど、世界の人の方がもっと苦しい思いをしているんだなと感じた。周りを見ることの大切さを感じた気がした。</li> <li>・ネパールなどの日本以外の国に目を向けて調べていると、世界全体の問題は自分からは少し離れたことだと思ったが、JICA 職員の話聞いたときに、確かに少し考えれば、自分の身の回りでも国際理解につながることはあるんだなと思った。</li> <li>・日本以外に住む人々の現状について具体的に知ることができた。日本国内のことですらよくわかっていないが、外国の事情を学ぶことで「日本はどんなのか」と、自分や身近なことに目を向けていきたいなと思った。</li> <li>・課題を自分たちの中で設定することや、構成を考えて分かりやすくなるように発表することが難しかった。みんなで一つのものを作り上げるというのは、とても難しい事だと分かった。</li> </ul>
15. 授業者による自由記述	<p>今回の研修を通して国際理解の奥の深さを実感した。日本や外国のことだけでなく、「自分自身を知ること」「隣にいる人を受け入れること」が国際理解においてとても大切なことだと知ったので、私はそのことを伝えたくてテーマを設定した。このテーマの意図が生徒たちにどれだけ伝わったかは定かではないが、いつか「なんか聞いたことあるな」とか「ネパールのこと授業でやったな」とか思い出してくれると嬉しく思う。</p>

参考資料：

- ・ ウソ？ホント？クイズ『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 ネパール連邦民主共和国』（特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター、公益財団法人 愛知県国際交流協会）
- ・ SDGs 世界・日本の現状：特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター（JANIC）  
<https://www.janic.org/world/about/>
- ・ CIL accessibility Video (<https://www.youtube.com/YouTube>)



【資料3】：発表事前準備ワークシート

国際理解①

令和元年11月12日(火)

私とあなたと世界の人と

1年2組 番 氏名

1. プレゼンについて

【評価の観点】

- ① グループで協力してプレゼンテーションができているか。
- ② アイコンタクトはとれているか。
- ③ 聴衆に聞きやすいように、大きな声で話しているか。
- ④ 発表時間（5分～6分）に収まっているか。

2. 発表の順番

抽選で決めます。

1	Education 「Education」	2	Medical care 1 「Medical care」
3	Industry 「Fair trade」	4	Medical care 2 「Differences in Medical Conditions」
5	Welfare 「ネパールの福祉について」	6	もりやもりもり 「インドのインフラ」
7	Culture/ Lifestyle 「21世紀の生活と文化」		

3. 発表の流れ

- ① 導入（司会あり）
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 次のグループ準備。聴衆はコメントシート記入

4. 今後のスケジュール

11月19日(火) チャンククイズ 後にリハーサル(教室にて)

11月21日(木) 5～6限 発表本番